

# 「月さびよ 明智が妻の

# 咄(はな)しせん」

講演



大津市歴史博物館 副館長  
講師 **和田 光生氏**

芭蕉が歌っている句を題材に、非常に謎の多い明智光秀について、歴史を踏まえ興味深く夫婦の秘話をお話しいただき、来年1月からの「麒麟がくる」を楽しんで下さいと結ばれました。

明智光秀の出身地は、諸説あるが、最近では近江も出身地かもしれないと言われている。

「月さびよ明智が妻の咄せん」という句は、松尾芭蕉が、元禄2年(1689)奥の細道の旅を終え伊勢に向かう途中、芭蕉の知人である島崎又玄宅に立ち寄り、貧しい中で芭蕉をもてなす彼の妻に贈った句とされている。

明智光秀が貧しい頃、連歌の会を催すため、妻が自分の髪を切ってお金に換えて連歌の会を催すことができた。その妻の心に打たれて光秀も一念発起し、妻を翼にも乗せるような身分にしたいと誓い、やがてその願いのとおりになったという「光秀の妻の黒髪伝説」に、貧しい生活の中、細やかなもてなしをした又玄夫婦を重ねてこの句が生まれたと言われている。

史実としては、京都の吉田神社の神主であった吉田兼見の日記に光秀の妻について書かれている。

1571年比叡山焼き討ち後、光秀は坂本城を築城。同時期に、信長の命により各地で戦鬪を繰り返す中、天正4年(1576)病になってしまった。

兼見の日記には、惟任日向守(明智光秀)のことを女房衆より申し来る。とある。つまり妻の方から光秀の病氣平癒の祈禱依頼があったということ。同年に今度は、病を看病していた妻が病に伏し、光秀から妻の病氣平癒祈願の依頼があったという記録もあり、光秀と妻が互いに思いやる良い夫婦関係であることがうかがえる。

戦国時代では、婚姻関係も大事な生き残り戦略とされていた。家族のあり方は、今の感覚とは大きく違う。信長のような戦略的な繋がりがあって一方、光秀の家族のあり方は、お互い労わり合うような形であったと思われる。

後は少し、大津と光秀の繋がりに触れたいと思う。宇佐山城は光秀が初めて城主に命じられた場所。これは比叡山焼き討ちの下準備のためと言われている。

自分の話もすると、雄琴の土豪であった和田秀純という人物がうちの先祖。光秀は滋賀郡の在地にいる土豪を自分の味方に引き入れる工作をしており、先祖もそれに呼応したところ、味方になった感謝と比叡山焼き討ちへの加勢を促す手紙をもらっている。

光秀はなぞの多い人。どのようにドラマで描かれるのかは分からないが、大津との縁なども考えながら、ドラマを楽しんでいただけたらと思う。



# 市民フォーラム報告書

発行日/令和元年12月1日 ■発行/男女共同参画をすすめる市民フォーラム実行委員会

開催日時 令和元年9月3日(火) 13:30~16:00

会場 大津市生涯学習センター



男女共同参画をすすめる市民フォーラム 実行委員長

新庄 博志

私はこの春より、おおつかがやネットワークの会長を務めています。初めて男性が会長を務めます。若輩ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。平成の時代は、男女共同参画推進法や市町の条例、職業生活や政治の分野での女性活躍推進法などがすべからず制定され、それぞれの生活や、家庭、社会の姿も少しずつはありますが変わってまいりました。ところが未だに根深い不認識が残っている部分や、既存のシステムでは変化に対応できず、問題を抱えておられる分野もあるかと思われまます。このフォーラムが、家庭や地域、職場の中の課題の抽出の糧になることを希望いたします。ありがとうございました。



大津市長 越 直美

今年のフォーラムでは、女性の活躍が進んできた現代であっても未だ解決されていない課題が多くあることを認識し、その課題の解消と誰もが働きやすく、また働きがいのある社会の実現を目指して、「残された課題の解消と女性の働きがいのある社会に向けて」をテーマとしています。

市民の皆様にも身近な男女共同参画の課題に目を向けていただき、その課題について考えていただくことが男女共同参画社会の実現への一歩に繋がると考えています。

このフォーラムが、誰もが自分らしく最大限に力を発揮できるまちづくりへとつながっていくことを期待しています。

## プログラム

### 第1部

講演 「月さびよ 明智が妻の 咄(はな)しせん ~大河ドラマ「麒麟がくる」の夫婦秘話を芭蕉の句からひもとく~」

講師 大津市歴史博物館 副館長 和田 光生氏

### 第2部

講演 「みんなでハッピー!! ~女も男も輝く社会~」

講師 法学者 谷口 真由美氏

## 第16回「男女共同参画をすすめる市民フォーラム」開催趣旨

これまでの第1次から第3次大津市男女共同参画推進計画(おおつかがやプランI-III)や大津市男女共同参画推進条例の施行によって、大津市の男女共同参画社会の実現に向けた意識啓発や取り組みは大きく進んできました。また、行政と市民の協働による取り組みも各所で行われてきました。そのような中、少子化による人口減少社会において、女性活躍の場が広がること、多様性を生み、付加価値を生み出し、経済成長につながる原動力になっていきます。

しかしながら、一部の男性優位が残る社会では、男女の賃金格差や、ひとり親女性が抱える困難、セクシャルハラスメントや女性に対する暴力など、いまだに解決されない課題が存続しています。今後は、人生100年時代を見据え、男女とも心身ともに健康的な生活を営むため、働きやすい就業環境を整備していかなければなりません。

ついでに、女性が直面している様々な困難などの課題の解消と、誰もが働きやすく働きたいのある社会の実現を目指し、第16回「男女共同参画をすすめる市民フォーラム」を開催します。

テーマ **私が変わる・あなたが変わる・まちが変わる**

~残された課題の解消と女性の働きがいのある社会にむけて~



# 「みんなでハッピー、女も男も輝く社会」

講演



法学者

講師 谷口 真由美氏

谷口さまは、日常生活の中で「憲法、人権」について考え、正しく返答することができるか。身近な問題を例にして世の中の多数者の声だけでなく、少数者にも目を向け理解をするために学ぶことで皆がハッピーになれることを熱くお話頂きました。

## 人権とは学ぶこと

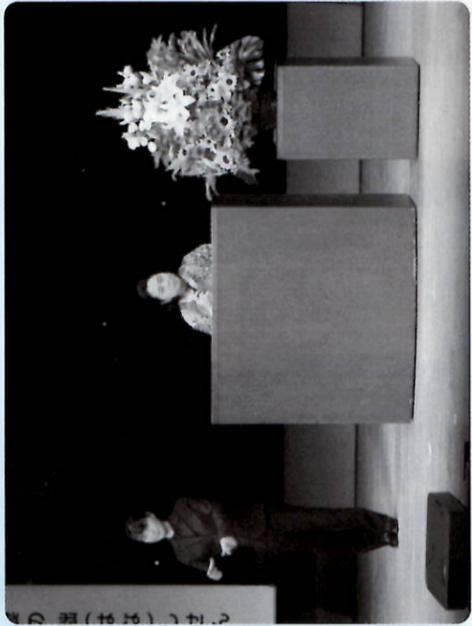
世の中によく言われる言葉「自分と未来は変えられない」。日本の言葉に仕方がないという言葉があります。仕方ないで済ましていいのか、ちょっとじつじつと考える時間に来た方がいいなと思っています。日常に、当たり前前、普通、常識、一般的にという言葉を使いがちです。

最初から強烈な話をすると、選択的夫婦別姓と言う議論がある。民法では、結婚をすると婚姻届を出すけれど、夫の氏か妻の氏かどちらか選べないと法律的に結婚できない。男性の96%はご自身の名字、この方たちは多数者の人です。変えたことのある96%の以上の女性たちは、なんで変えなあかんと一瞬思ったことがあるはずですよ。ちょっと立ち止まって考えて頂くと、何でやろう？なんでやろうと気づくことって大事です。

私が、阪神タイガースで頑張っておられた真弓明信さんと結婚したらどうなります？真弓真由美ですよ。真弓真由美は嫌、谷口明信になるの嫌と言うたら、今の日本の婚姻制度では結婚できません。憲法24条「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し」とあります。姓はどちらでもよいよという三つ目の選択肢、反対する合理的な理由はありませんか？多数者の皆さんは、考えたことがない。関心ないからですよ。世の中で一番鈍感になっていく属性とは、多数者でなくなることへの凄く怖がるので空気を読むんですね。

例えば、無戸籍の子どもさんの話。何で無戸籍になったかという問題。例えば、夫から暴力を振るわれて来た女性が逃げて、10年を経た後、別の男性と暮らしてその人との間に子どもができたケース。夫と離婚したいが、そのために連絡をとると居場所が知られては怖いと思ひ、離婚できていない。その場合生まれてきたお子どもさんはその夫の子どもと推定される。これも民法の話です。離婚できていない夫に居場所を知られるのを恐れて女性たちが出生届を出さなかった。戸籍のない子どもは、予防接種が受けられない、当然保険もなし、小学校の入学案内もきません。

夫婦別姓で嫌だな、自分の尊厳損なわれていると思ったり、戸籍がないことよって不利益をこうむったりしている人達がいることを知ることから我々は学べていないんですね。いろいろな立場の人がいるということを理解して勉強するしかないんです。残念ながら、人権というのは勉強するといつか学ぶことでしか習得できない。



## ハッピーに暮らすためには

人権って何って聞かれたら、学生に聞くとね、産まれながらに持っているとか、みんな平等のものとかって答えが返ってくる。頭の体操として言うとか、それは誰からですか。民主主義の起りとかすごい密接に関連している。1700年代にアメリカという国ができた。できた、独立した、という言い方もよくないです。そもそも先住民のネイティブアメリカンが存在している。アメリカ大陸の一部はイギリス植民地でしたが、本国イギリスと戦い、独立した。それまでの社会と違うのは王様が必ずいる。王様の一族とそれ以外の神の名の下に、みな平等という考えができた。そうやって統治してきたのです。独立したアメリカでも、ジョージ・ワシントンに人気があるから王様にならないかという話がありました。結局、初代大統領になって、始めて王様が統治しない国ができた。民主主義の国ができた。王様から与えられたものでなく、我々の人権は我々がお互いに認め合っているという考え方になる。王権神授という考えから社会契約という考えに代わるのです。皆さんも私も見えない契約を交わしているんです。皆さんと行政、政府とかも見えない契約を交わしている。憲法がそこを保障しているんです。

日本国憲法に書いている表現の自由があります。集会、結社の自由。なんで守られているかと言うとお互いに守ろうと言う約束の前提で、この社会を成り立たせている。みんな平等というのは、みんな同じだけ権利があるという話です。

世の中を設計するときに誰の目線で設計するか。社会も誰もがハッピーに暮らす一つの秘訣は脆弱な人達に合わせてなんでも設計していくのが、実は皆さんにとって、ハッピーになる秘訣なのです。多数者と言うのは、実は傲慢なのです。さっき言ったみたいに当たり前、普通、常識、一般的、誰でも言っている。そんなもんとする言葉を使えば通用したのです。

LGBT、性の多様性、性別というのも男と女だけじゃないよと言う話が出てきました。多数者の中で安穩と生きてこられた方たちは、自分と違うものを見た時に人間は排他的になるんです。何で人権って学ばないと無理かと言うと、人間ってそもそも動物なんです。排他的なんです。それを調和して融和して共存していることというのは、知恵と思考しかないんです。だから勉強するしかない。人権は、勉強することです。か学べないんですよ。

だから「ハッピーに暮らすには」と言われたら、特効薬はないかもしれませんが、少なくとも理解するために学ぶということか、自分の少数者に気づいていくということが大事です。世の中で多数者が大きな声で言っていることに対してほんまかなと言う眼差しを向ける事が、みんながハッピーに、社会がハッピーになれる秘訣じゃないかと思えます。

